

04 かながわの歩み

神奈川には原始（先土器時代）から相模原台地を中心に人々が住み始め、源頼朝が鎌倉に幕府を開いた鎌倉時代には、日本の中心地となりました。この時に鎌倉では鶴岡八幡宮を中心に若宮大路などの道が整えられ、多くの寺社も建てられました。江戸時代には、東海道などの現在の交通網の骨格となる道なども生まれ、街道の拠点となる宿場町は、物資の輸送や旅人同士の交流の拠点となりました。東海道には、県内では九つの宿場が設けられ、また藤沢遊行寺や江の島など、その沿道にある信仰の地や行楽の場への往来でにぎわいました。

幕末には、横浜は「開港場」となり、関内地区に整

然と外国人居留地が置かれ、公園や並木道（現日本大通り）が整備されました。これが、西洋の近代的都市計画の考え方を導入した日本の近代都市計画の始まりでした。こうしたことからいろいろなものが輸入され、このうち、アイスクリームやビール、テニス、鉄橋、鉄道などは横浜が発祥の地となっています。現在のみなとみらい地区（横浜市）の日本丸メモリアルパークから新港地区へ向かう遊歩道（自動車道）は、かつて物資輸送に使われた臨港鉄道の遺構を保存・活用したものです。その後、震災や戦災という、2度にわたる壊滅的な打撃を受けましたが、これを復興のエネルギーに変え、都市づくりは進みました。

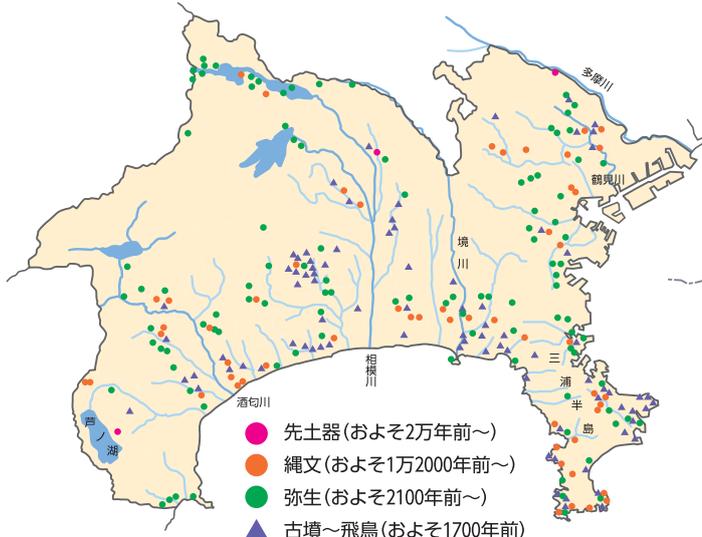
神奈川県歴史

時代	年代	主な出来事
原始	3万年前	相模野台地に人々が住み始める
	2万年前	県内の各地に人々が住み始める
古代	645 大化 1	☆大化の改新
	716 霊亀 2	相模の国ができる
	794 延暦 13	☆京都に都がおかれる（平安京）
鎌倉〜江戸	1192 建久 3	☆源頼朝が征夷大将軍になる ☆源頼朝が鎌倉に幕府をひらく
	1264 文永 1	鎌倉の大仏完成
	1333 元弘 3	☆鎌倉幕府が減じる
	1338 暦応 1	☆足利尊氏が京都に幕府をひらく（室町幕府）
	1467 応仁 1	☆応仁の乱
	1495 明応 4	北条早雲、大森氏の小田原城をうばう
	1543 天文 12	☆鉄砲が伝わる
	1590 天正 18	豊臣秀吉、小田原城を攻め北条氏がほろぶ
	1600 慶長 5	☆関ヶ原の戦い
	1603 慶長 8	☆徳川家康が江戸に幕府をひらく（江戸幕府）
	1619 元和 5	箱根に関所が設けられる
	1667 寛文 7	横浜に吉田新田が完成
	1853 嘉永 6	☆ペリーが浦賀に来航
	1854 安政 1	☆日米和親条約（神奈川条約）が結ばれる
	1858 安政 5	☆日米修好通商条約が結ばれる
1859 安政 6	☆神奈川の港が開かれる	
1867 慶応 3	☆大政奉還	
明治	1868 明治 1	☆明治維新 江戸が東京になる
	1869 明治 2	横浜の埋立がさかんに行われる（1869～1875）
	1871 明治 4	廃藩置県により、小田原、荻野山中、葦山、六浦、神奈川の5県が設置される

☆印は社会の大きなできごと、無印は神奈川県内のできごと・主な鉄道の開通

時代	年代	主な出来事
明治	1872 明治 5	☆新橋・横浜間に鉄道が開通
	1876 明治 9	今の神奈川県ができる
	1889 明治 22	☆大日本帝国憲法発布 東海道線、横須賀線が開通 横浜が市になる
	1894 明治 27	☆日清戦争がはじまる
	1902 明治 35	江ノ島電気鉄道が開通
	1904 明治 37	☆日露戦争がはじまる
1908 明治 41	横浜鉄道（現横浜線）が開通	
大正	1913 大正 2	浅野総一郎などが川崎の海岸の埋立をはじめる
	1914 大正 3	☆第一次世界大戦が始まる（～1918）
	1921 大正 10	相模鉄道が開通
	1923 大正 12	☆関東大震災
	1925 大正 14	☆普通選挙法ができる
	1926 大正 15	東京横浜電鉄（現東横線）が開通
	1927 昭和 2	南武鉄道（現南武線）、小田原急行鉄道（現小田急線）が開通
昭和	1941 昭和 16	☆太平洋戦争がはじまる
	1945 昭和 20	横浜が大空襲をうける ☆第二次世界大戦が終わる
	1946 昭和 21	☆日本国憲法が公布される
	1956 昭和 31	☆国際連合に加入
	1964 昭和 39	☆東京オリンピックが開かれる 東海道線新幹線が開通
	1969 昭和 44	東名高速道路が全線開通
	平成	1989 平成 1
1990 平成 2		サーフ'90が開催される
1998 平成 10		かながわ・ゆめ国体が開催される
2004 平成 16		みなとみらい線が開通
2010 平成 22		相模原市が政令指定都市になる
2011 平成 23		☆東日本大震災

人のくらし、まちのはじまり



人々は相模川沿いの台地や酒匂川沿い、
また三浦半島の海岸沿いに住み始めました

神奈川県史(神奈川県)、図説かながわのまち解体新書 1999年(神奈川県都市政策課)他より

近世交通図



神奈川の東海道(上)(神奈川県東海道ルネッサンス推進協議会)より

鎌倉のまちとみち

源頼朝が鎌倉に入るとまずとりかかったのが道路の整備です。都市を構成するうえで重要な要素となる道路ですが、鎌倉時代の道路整備は、防備とともに物資と人の流入のために行われました。鎌倉への出入口は、山を削りとして作られた「切り通し」であり、極楽寺坂、大仏、化粧坂、亀谷坂、巨福呂坂、朝比奈、名越の七つが整備され、「七切り通し」または「七口」と呼ばれています。切り通し付近には、外側左右の山腹を垂直に削って登りにくくした切り岸や、山腹をひな壇状に削って陣地とした平地が現在も残っています。三方の山並を城壁とする城塞都市・鎌倉の特徴といえます。



かながわの古道(神奈川合同出版)より

鎌倉道

鎌倉幕府開府以後、各地から鎌倉に向かった中世古道を総称して鎌倉街道といいます。上ノ道(西の道)、中ノ道、下ノ道(東の道)の三街道、また六浦路、三浦道などがあり、これらは鎌倉を中心に放射線状に広がっていました。

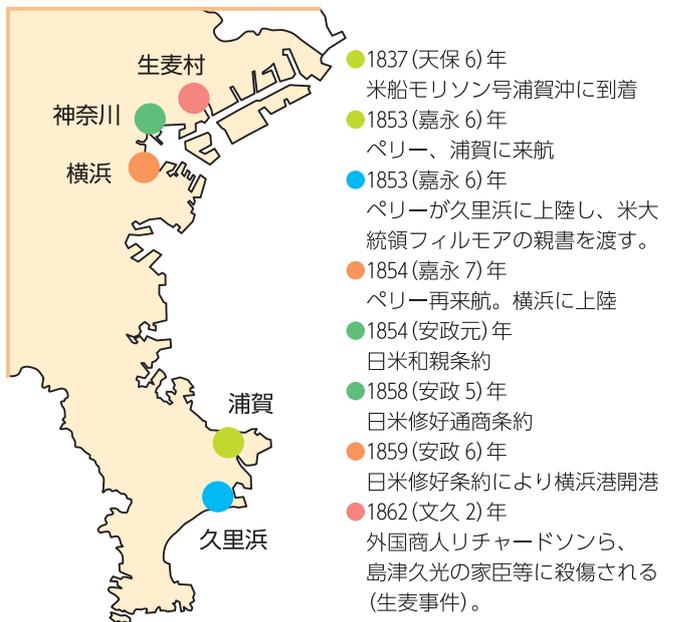
- 上ノ道…信濃、上野方面から武蔵府中を経て境川沿いに南下して化粧坂に至ります。頼朝による鎌倉建設の道であるとともに、新田義貞によって攻められた鎌倉陥落の道でもあります。武相武士がもっとも多く往来した道です。
- 中ノ道…武蔵府中への政渡しかから下流の二子渡しにかけての渡河点多摩川を渡り、多摩丘陵を越えて鶴ヶ峰に集まり二俣川を経て下ノ道に合流します。現在も世田谷の代田、若林、弦巻、用賀に鎌倉道という伝承が残っています。
- 下ノ道…江戸方面から東京湾岸の台地上を進み、鶴見、保土谷、弘明寺を経て亀谷坂または巨福呂坂に達します。室町時代には往返が多くなりました。
- 六浦路…房総方面から東京湾を渡り、金沢から朝比奈切り通しを越えます。交通上の重要な港、製塩の地、戦略上の用地、士民慰安の地として重要な地理的条件を備えていました。
- 三浦道…三浦方面から名越坂または小坪坂に向かいます。

かながわの古道(神奈川合同出版)、神奈川県史(神奈川県)より

大山道(近世の道)

関東一円から相模国・大山阿夫利神社(現:伊勢原市)へ向かう参道です(江戸時代)。かつて大山信仰が隆盛を極めていた頃は、関東の道はすべて大山に通じると言われ、東北・東海地方へと広がっていました。これらの道は、信仰の道であるとともに地域の生活道でもあり、その道筋は時代により変わっていきました。大山道には大山講中などに献納された石灯ろうや不動尊蔵が建てられており、台座などに刻まれた道しるべが人々を導いています。現在では国道246号等に引き継がれ、主要幹線道路として重要な役割を果たしています。

開港の歴史



図説かながわのまち解体新書 1999年(神奈川県都市政策課)より